

5—31—0

(包紙)

「文政元年寅年於鳥府

御船大將香川次郎右衛門様より

御隱居様へ差上被成候頭書并ニ

御家老新八郎江次郎右衛門より御状写」

5—31—1

(折紙) 上段

尚々深浦御役所江呼出し申渡させ

候義旧例之通り□、其御屋敷□□□

米子表二而定而表向ニ被仰渡候義与

奉存候、此段得御意置候、以上

今日者不輕寒風相成候得共

弥御安康被成御勤□と奉存候

誠ニ此間之御内書早々可及御

答之所被仰下候趣尤

御隱居様よりも厚御内談

被為成、何卒兩人引塩丈ヶ

相考吳候様御内沙汰候故

役所段々取調へ間取り追々

今朝存寄書認メ御屋敷ニ

罷出御隱居様へ御直ニ

相窺候所被成御承知候ニ付

貴兄御尋申候得共未

御出勤間も可有御座与申事故

心外相仕廻、右御左右 ■ 答

旁如斯御座候内存書付ニて

上置候ニ付御覽可被成候

干鰯改メ役共老人入用ニ

候得共新九郎共家筋之者

難申付乍去相望ミ候ハ、

(折紙) 下段

深浦御役所承り申越候様

何分深浦詰候て具ニ遣し

此度兩人共當役用達し

申付させ心得申渡浜方も

差出し可然義者致差図候様

彼等ニも御為筋之儀者

深浦詰石田正藏江申遣し

正藏より申越候義も御座候ハ、

其年御役人より与申趣ニ相成り

作法通と御座候ハ、申達し

安キ事ニ付近々深浦

考等心得も申遣候と申ニ付

左様御承知被下、當時此余ニ

私力叶不申候、御勘弁可被下候

扱々兩人之者共氣毒存候得共

余り物事火急ニ不致様心得

被仰聞置可然哉ニ奉存候

具ハ対面ならてハ難尽与

急キ乱筆御免乍未御同性様ヘも

宜敷頼上候、以上

十月十七日

新八郎様

次郎右衛門

極内答

ア